

あさひ互近所ささえ～る隊 R4年度 活動報告



あさひ互近所ささえ～る隊隊長
都岐沙羅パートナーズセンター
斎藤 主税

社会福祉法人・住民有志による 移動支援実験（3年目）

【目的】

R2～3年度の実績を踏まえ、継続実施に向けた内容・方法・仕組みを実証実験を通じて検討・検証していく。

【R4年度のポイント】

- **買物送迎支援**に焦点を絞り、過去2年間と同様、住民ボランティアが区内高齢者福祉施設の送迎用車両を使用して実施。
- 民生委員・保健師等が**直接声を掛けた高齢者を対象**。（本当に困っているであろう方々）
- 巡回しながら自宅から商業施設までを個別送迎。
- 参加費として**500円／人**を徴収。
- 買物ウォークと銘打って、買物時には**万歩計**を付けてもらい歩数を計測。
- **各回で行き先を変えて**ニーズ等を検証。



社会福祉法人・住民有志による移動支援実験（3年目）

【実施体制】

使用車両：4台

スタッフ：8名（各車両に運転員1名＋添乗員1名の2名体制）

- ✓ 参加者のとりまとめ・連絡調整／送迎ルートの設定／ボランティアへの確保・連絡等は事務局＋集落支援員で担当。
- ✓ 運転ボランティアは安全運転者講習を受講（新たなボランティア確保の意味合い含む）

【実施実績】

実施時期：R4年6月～11月（計6回実施）

送迎人数：のべ70名（1回あたり7～17名／実数32名）

- ✓ 前半3回（6～7月）と後半3回（9～11月）では、行き先、参加者集めの方法を変えて実施。

【当日のおおよその流れ】

- 10:00 各福祉施設に集合・送迎車両の借用
- 10:10 送迎に向けて出発
- 10:40 商業施設に到着／ガイダンス後、買物スタート
- 12:00 商業施設を出発／各自宅まで送迎
- 13:10 送迎終了・車両返却



社会福祉法人・住民有志による移動支援実験（3年目）

【実験からわかったこと】

- 昨年度からのやり方（福祉施設から車両を借用／運転員＋添乗員の2人体制／ドアツードア対応／保険の掛け方等）は適切であり、このままでよい。
 - 買物をすることで歩数は確実にアップする。万歩計を付けてもらおうと、参加者も意識して歩くようになる。
 - 朝日地区の場合、イオンよりもウオロクや原信の需要が高い。
 - 配車状況によって店舗への到着時間が異なるため、到着次第、順次、買物スタートという形式はよかった。
 - 食品＆生活用品が買える店舗を回るのはよかった。
 - 集落支援員が調整役をすることで、窓口が一本化してスムーズである。
-
- ✓ 地区ごとに参加者を集める方法は適していない。（参加者が減少する）
 - ✓ 店の混雑状況により買物時間が変動する。特売日は要注意。
 - ✓ 利用者が多くなると、配車計画や帰りの荷物（購入物品）の積み込み等に工夫が必要。
 - ✓ 運転ボランティアの事前研修（初めて乗る車両の試運転・ルート確認等）があるとよい。



集落座談会の開催支援

【目的・概要】

住民同士のささえあいの機運を高め、自発的な取り組みへとつなげていくために、集落単位での対話の場の運営を支援。

【R4年度の実績】

4集落（大場沢・布部・北大平・大須戸）で実施。

＊北大平集落については、たかねまちづくり協議会が開催支援を実施し、そこへの「協力」という形で参画。

＊早稲田集落については、早稲田おせっかい隊が2/5に開催した豆まきイベントで、幅広い世代の対話が自然発生的に行われたことから、対話の場の別途開催しなかった。

【所感】

コロナ禍でなかなか実施できなかったが、徐々に開催できるようになってきた。すぐに具体的な成果ができるものではないが、定期的に対話の場を設けていくことは重要であるため、引き続き実施していく予定。



大場沢集落座談会の様子 (R4.12.11)



早稲田おせっかい隊の活動の様子 (R5.2.5)



布部集落座談会の様子 (R5.2.22)



北大平集落座談会 (その2) の様子 (R5.3.4)

まちづくり協議会との意見交換会

【目的・概要】

朝日地区5まちづくり協議会（館腰・三面・たかね・猿沢・塩野町）の役員及び関連部会メンバーと、あさひ互近所ささえ～る隊メンバーとで、お互いの取り組みや課題等について、ざっくらんな意見交換を実施。

【R4年度の実績】

開催日時 令和4年8月26日（金）19～21時
会場 朝日支所2F会議室
参加者数 18名（まち協12名＋互近所6名）

【所感】

これまで、なかなか伝わっていなかった互近所ささえ～る隊の取り組みや、お互いが気になっている地域の状況等を対話を通じて共有・理解が進み、とても有意義な機会となった。

